

経営比較分析表（令和元年度決算）

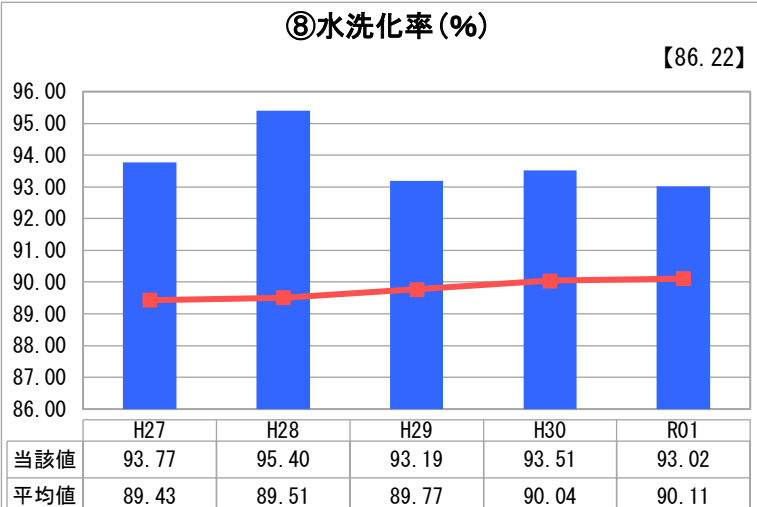
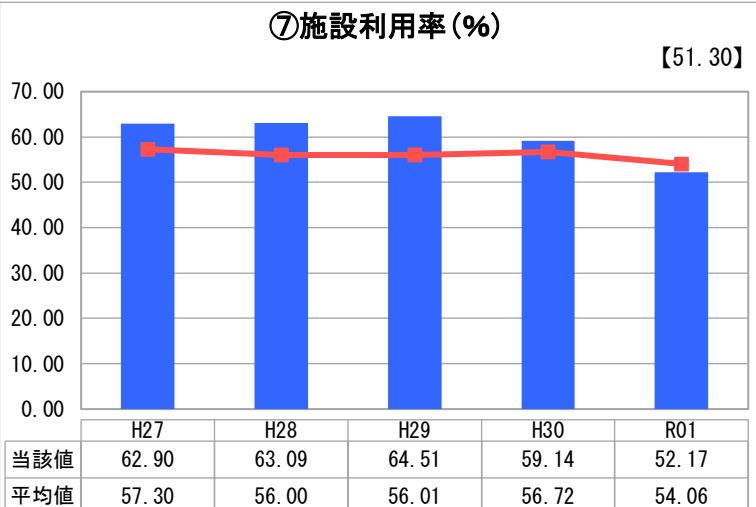
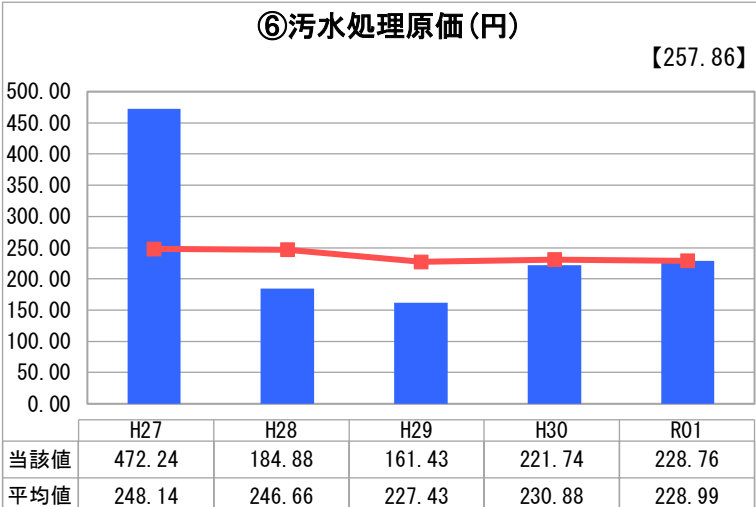
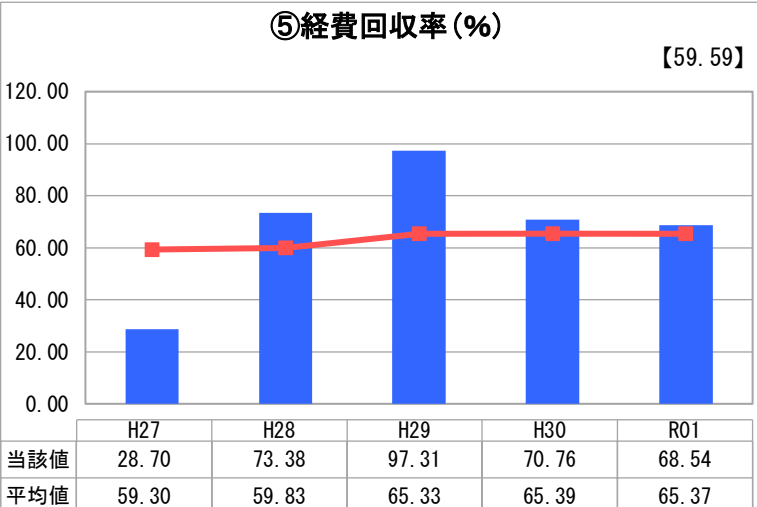
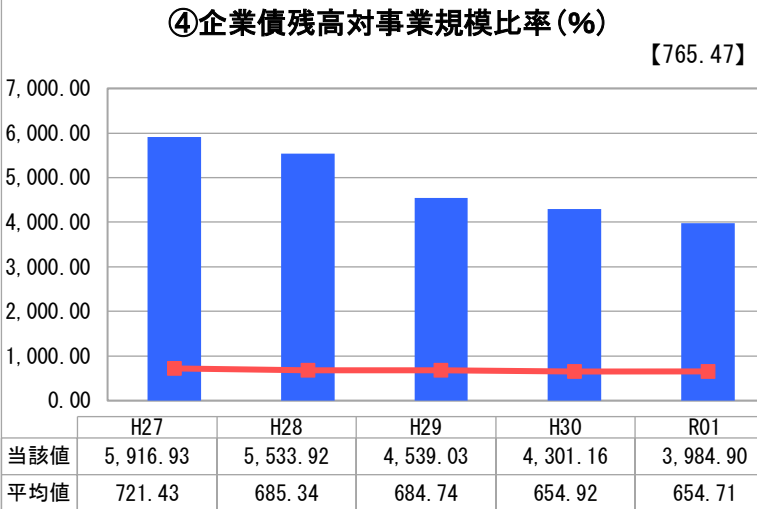
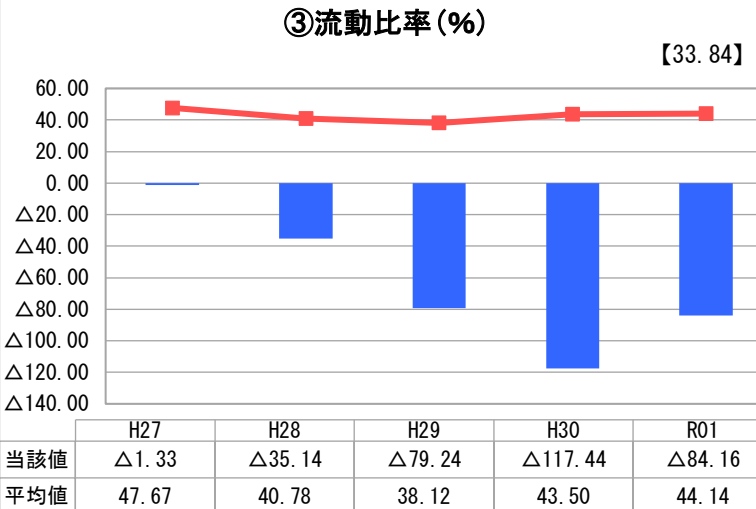
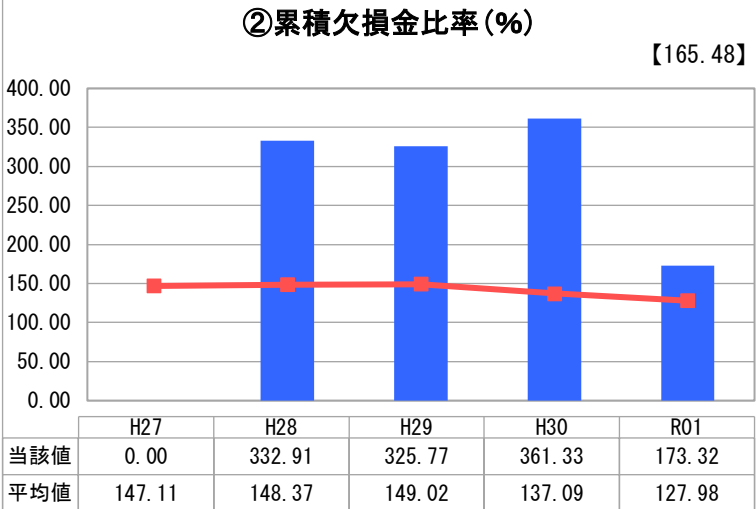
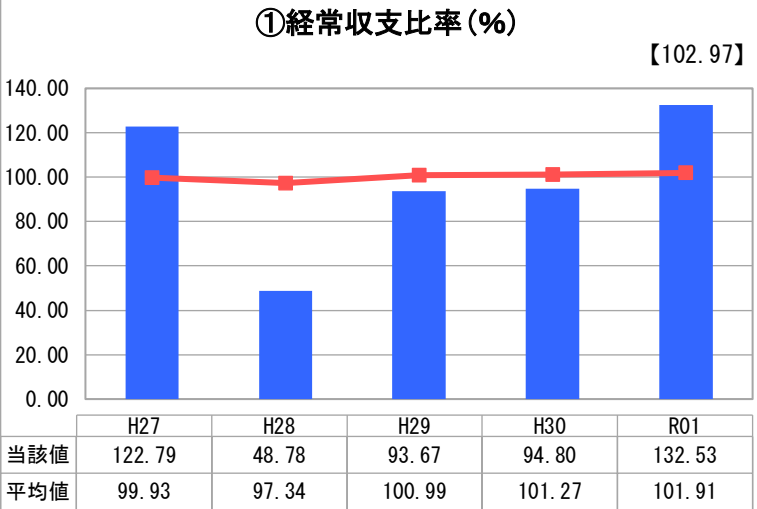
岩手県 矢巾町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	農業集落排水	F1	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	58.91	17.37	80.36	3,162

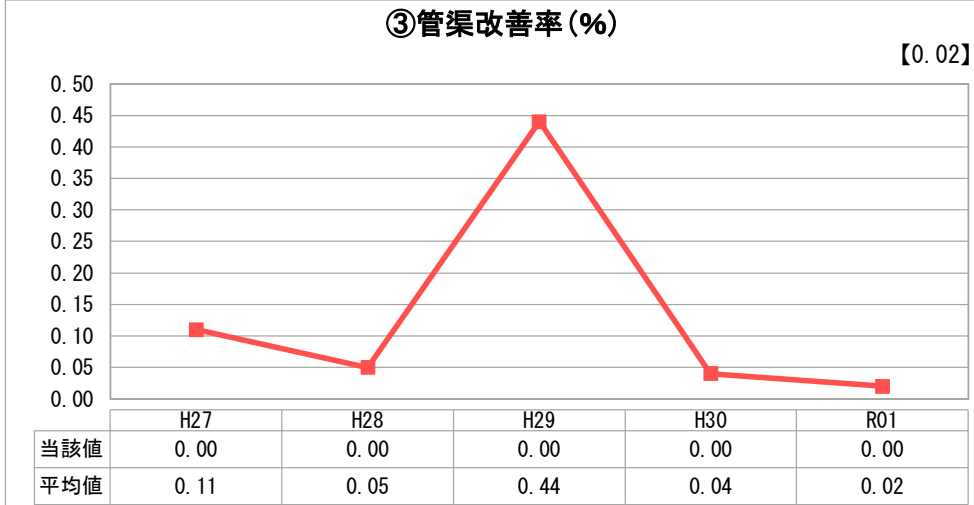
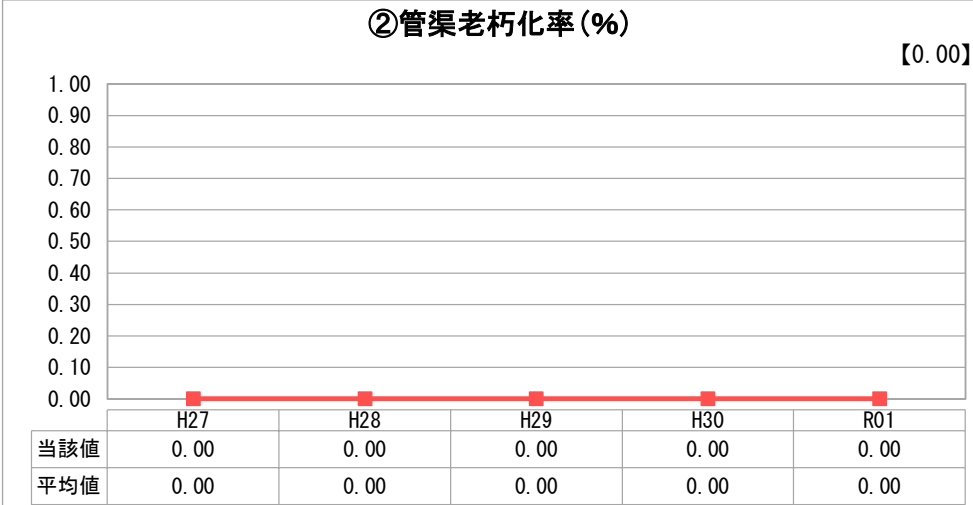
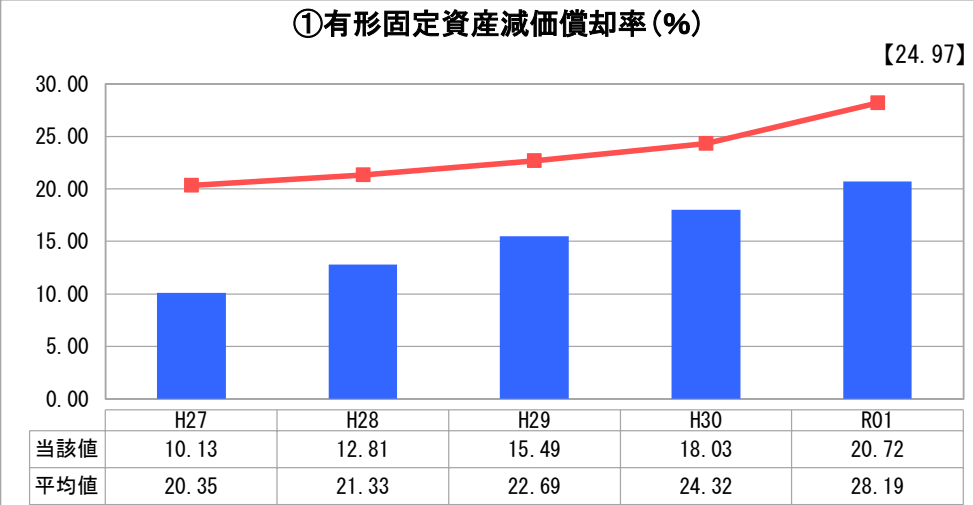
人口（人）	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
27,377	67.32	406.67
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
4,730	20.06	235.79

グラフ凡例
■ 当該団体値（当該値）
— 類似団体平均値（平均値）
【】 令和元年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



1. 経営の健全性・効率性について

経常損益の割合を示す指標である経常収支比率は132.53%と前年度から大幅に改善したが、一時的な増加であり、今後は下落することが見込まれている。

内部留保資金で補てんすることが出来ず、複数年にわたって累積した欠損金の営業収益に対する比率である累積欠損比率は173.32%と改善した。しかし、本来は0%が望ましい指標であることから、依然経営の健全性に問題があると考えられる。

支払能力を示す流動比率は△84.16%とこちらも改善したものの平成26年度から6年連続マイナス値となっている。公共下水道事業と同一会計であるために支払いができていない状況であり、早急な改善策が必要である。

使用料で回収すべき経費を使用料収入でどの程度賄えているかを表している経費回収率は68.54%と、経費を7割程度しか賄えていない現状が浮き彫りとなっている。

水洗化率の向上のために企業債を財源とする工事を行ってきたため、企業債残高対事業規模比率は3984.90%と類似団体平均を大幅に上回り、事業規模に対して企業債が過大なものとなっている。

以上の結果から、経営は健全とはいえず、今後もますます厳しいものになると考えられる。

2. 老朽化の状況について

農業集落排水の供用開始は昭和57年であり、耐用年数を超えて使用している管渠はない。

現在の経営状況では、管渠の更新や施設の災害対策などの避けられない投資であっても捻出することが難しく、更新の負担を最小限にするためにもストックマネジメントなど将来計画の策定が求められる。

全体総括

経常収支比率は100%を超えたものの一時的なものであり、累積欠損金が生じているなどきわめて厳しい経営状況である。農業集落排水使用者の減少は今後加速していくものと考えられ、大幅な増収策を講ずることが難しい。

近年管渠に対する新規投資はほとんど行っていないため、企業債の償還は漸減することが見込まれているものの、当面の間企業債の償還金が高額に推移し、更にこれまで取得した資産の更新が経営を圧迫することは明白である。

令和2年度から矢次地区を流域下水道に接続し、同4年度からは下赤林地区を接続予定であるものの、経営コスト縮減の効果は限定的であり、抜本的な業務の見直しが必要である。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のための類似団体平均値及び全国平均を算出しています。